



## 英語になった日本語

「秋の日はつるべ落とし」と言いますが、まさにその通り。日に日に早まる日没に、なんだか切なさが増します。

しかし、秋にならではの楽しみもありますよね。そこで、「○○の秋」について調べてみました。

### 「睡眠」

夏は夜でも気温が高いため寝つきが悪かったり、寝苦しかったり。反対に冬になると体が冷えてなかなか眠りにつけないことがありますね。その点、秋は気候が安定しているので、睡眠改善に適した季節だそうです。

### 「芸術」

1918年雑誌で「美術の秋」ということばが使われたことがきっかけとか。大正モダニズムが花開いたこの時代、芸術の秋はすぐに根付いたそうです。気候の落ち着いた秋は作品鑑賞をしたり、制作するのにもってこいですね。

### 「スポーツ」

念願の日本初オリンピックが東京で開催されたのは、1964年10月10日。その後“体育の日”が制定されました。確かに秋晴れの日は、外で体を動かしたくなりますよね！秋に運動会、体育祭を行う学校も多いとおもいます。

### 「読書」

「読書の秋」とは、唐の時代の詩人韓愈が詠んだ「灯火親しむべし」という詩がもとになっていると言われています。夜が長く涼しい秋は、静かに読書するにはぴったりの季節ですね。

### 「食欲」

やっぱり「食欲の秋」は外せないでしょう！

秋に食欲が増す理由としては、「日照時間が短くなると、精神の安定につながる脳内のセロトニンの分泌が減り、それを補うため」とか、「気温が下がると基礎代謝が上がり、寒い冬に備えてカロリーを蓄えておこうするため」などが考えられるそうです。

ですが、「秋には、新米、さんま、松茸、栗、ブドウ、梨、さつまいも…などなど、美味しいものがたくさん旬を迎えるから」というのが、私の中では最有力の説です！



さて、私たちは必須科目として英語を学びます。

なぜ英語を学ぶのか。もちろん教養として大事な知識かつ能力ですが、加速し続けるグローバル化や情報通信技術の進展を避けられない未来で、生き抜くための手段の一つとして必要だからだと思います。

英語は実質的に世界の公用語であり、今後も当然その状況が変わることはないでしょう。

Web上の言語を比較すると、日本語での情報は全体の2.7%であるのに対し、英語は60.9%にもものぼるそうです。つまり、英語を理解できると、日本語の20倍以上の情報量を得られることになります。

ですが、英語習得への道のりはなかなか険しい…。文法が日本語とは異なるし、単語は覚えられないし、前置詞の使い分けもよく分からない…涙。こんな時思いませんか？「あー、世界の人が日本語を理解してくれれば楽なのに」

というわけ？本日は英語としても通用する日本語を調べてみました！以下ピックアップした単語は、Cambridge Learner's Dictionaryにて検索しております。

### <日本食編>



“sushi(寿司)”、“shoyu(醤油)”、“teriyaki(照り焼き)”、“ramen(ラーメン)”、“sukiyaki(すき焼き)”などは、もはや海外でも定着した日本語。細かい説明は不要ですよ。



## \* umami(うまみ)

“a strong taste that is not sweet, sour, salty, or bitter and that is often referred to as “the fifth taste”

おお、「第五の味」ですか！なるほど〜、日本人の繊細な舌ならではの味覚ですか？酸いも甘いも噛み分けた上には、旨みがある！？

因みに広辞苑にも「うま味は四基本味とは独立した味を有し、第五番目の基本味と考えられる」と記載されていました。

## \* edamame(枝豆)

“a Japanese dish consisting of soybeans in their pods that have been boiled in water with salt”

うむ、これはお酒のおつまみ前提での解釈でしょうか？日本語では、茹でてあっても、なくても、枝豆…ですよ？

## \* Kobe beef(神戸牛)

“high quality beef that comes from a type of Japanese cow and has a lot of flavour”

バスケットボールの世界的スター、コービー・ブライアント Kobe Bryant 選手のお名前の由来が、神戸牛だったというのは、有名な話ですよ。彼のお父様が、Kobe beef が大好きだったのだとか。似た言葉としては、Wagyu（和牛）もありますが、残念ながら「松坂」や「近江」など他の産地名は検索してもヒットしませんでした。

## <日本文化・サブカルチャー>

“manga(漫画)”、“otaku(おたく)”、“karaoke(カラオケ)”、“kabuki(歌舞伎)”、“bonsai(盆栽)”など、日本発祥の言葉があります。



## \* anime(アニメ)

“Japanese films made using characters and images that are drawn rather than real, or one of these films”

意外だったのが、海外では“anime” ≠ “animation”ということでした。海外で言う“anime”は日本のアニメに限定されているそうです。ということは、ジブリは“anime”、ディズニーは“animation”なんですね。知らなかったなあ。

## <ビジネス編>

“honcho(班長)”、“kaizen(改善)”、“zaibatsu(財閥)”、など意外な言葉がありました。班長は hancho ではなく、honcho というスペルになるのですね…。



## \* kanban/kanban system(かんばん方式)

“a system of communication between workers during a manufacturing process, in which they order the materials and parts they need using cards. Card systems have now been replaced by computer systems”

トヨタ自動車が開発した生産管理システム（かんばん方式）のことで、「必要なものを、必要なときに、必要なだけ」供給するための生産計画が、世界に広がったものだそうです。すみません、あまり理解していませんが…汗。

## <その他>

“tsunami(津波)”、“shiatsu(指圧)”、“ninja(忍者)”、“sudoku(数独)” など



## \* sensei(先生)

“a teacher of karate or other martial art (= traditional Japanese or Chinese form of fighting or defending yourself)”

武術における指導者のことを指すそうです。日本はともかく、中国由来の武術の指導者の方に対しても、“sensei”とお呼びして良いのかは、若干疑問ですが…。

いかがでしたでしょうか？

日本語や日本文化が、世界に与えている影響があることを知ると、少し誇らしい気分になりますね。

本来の日本語と意味合いが変わってしまったものもありますが、上記以外にも日本語由来の英語は沢山あると思います。もっとも世界に皆さんに、日本のことを知ってもらい、日本語が普及する日を切に願いつつ、今はまだ英語の勉強をしようと思います！